

流行性脳炎(日本脳炎)について

流行性脳炎ウイルスに感染している動物を吸血した蚊が、他の健康な動物を吸血する際にウイルスを伝搬させます。

毎年、蚊の吸血活動が活発になる時期に発生し、流行地域は南から北に拡大します。



抗体を持たない妊娠豚が本疾病に感染すると異常産が発生します。母豚は無症状ですが、流産により白子・黒子・ミイラ胎子が娩出されます。流産を免れた子豚も、出生直後に震え、痙攣、麻痺等の神経症状を示します。

流行性脳炎による異常産は未越夏豚を中心に発生があります。夏を経験した母豚はほとんど抗体を獲得していると考えられますが、免疫を獲得していない母豚も存在するため、蚊が発生する前に、母豚にワクチンを接種することで、異常産を防御することができます。

飼養衛生管理基準を遵守し、豚舎や敷地内を清潔にすることで、蚊の発生を最小限にしましょう。

京都府中丹家畜保健衛生所 福知山市字半田371-2
TEL 0773-25-1860 FAX 0773-25-1861
(休日・夜間は転送されます)